

会水二

会報 1 1 4 号



令和 4 年 1 2 月

姫路南プロバスクラブ

- ⑥先日お願いしていますが、記念誌「ひとこと」の原稿よろしく
お願いいたします。

※ 研修親睦委員会

① 親睦バス旅行の件

本日、コース案を提示させていただきますので、検討していただき
行く先を決めたいと思います。

1. 案 神戸市内、道具館他（
2. 案 ちりめん歴史館、安野光雅館他

※ 会 計

① ニコニコ報告

姫路南プロバスクラブ 報告事項（9月・例会）

〈役員会〉日時：令和4年9月14日（水） 午前11時～
〈例 会〉日時：令和4年9月14日（水） 午後12時30分～
※出席者数 出席16名 欠席3名（益田、近藤、伊藤）

※会長のひとこと

◇委員会報告

※総務委員会

- ①9月例会 「3F・藤の間」フリートーク こんなテーマでは？
・長引くコロナ ・異常気象 ・プラスチックごみ
・姫路のグルメ ・私の趣味 ・大リーグ大谷選手の活躍
・その他自由テーマ
- ②9月の誕生 岡本会員
- ③10月例会 10月12日（水） 午後12時30分～
市政出前講座「フレイル予防で目指せ健康長寿」
姫路市保健所 健康課 垣内亜希氏
※なお、11時から「梅の間」にて役員会を行います。
- ④11月例会 11月9日（水） 親睦バス旅行の予定
- ⑤兵庫県プロバスクラブ交流会について 中止予定
- ⑥先日お願いしていますが、記念誌「ひとこと」の原稿よろしく
お願いいたします。

※研修親睦委員会

- ①親睦バス旅行（神戸方面・竹中大工道具館、櫻政宗・櫻宴 他）の件

※ 会 計

- ①ニコニコ報告 大橋（残暑厳しくご自愛ください）岡本（足を痛めた誕生日）
川本（残暑乗り切れました）前田（残暑厳しい中ゴルフご苦労様でした）
濱口（残暑に勝ちましょう）



役員会

日時：令和4年11月 9日(水)

※総務委員会

- ① 1 1 月例会 バス旅行 神戸市内
- ② 1 2 月例会 1 2 月 1 4 日(水) 忘年例会 正午から 「桃李」にて
臨時会費 = 3,000 円
(欠席の場合、必ず事前連絡をお願いします)
- ※ 1 1 時から「梅の間」にて役員会を行います。
- ③ 1 月 例 会 1 月 1 1 日(水) 午後 12 時 30 分
皆さんから「新年にひとこと」
- ※なお、1 1 時から「梅の間」にて役員会を行います。
- ④ 2 月 例 会 2 月 8 日(水) 会員卓話 研修親睦担当
- ⑤ 1 1 月 2 4 日 全日本プロバス協議会総会(東京八王子) 中野会長参加
- ⑥ 記念誌用顔写真、1 月例会時に藤原委員長にお願いして撮影いたします。

① 親睦バス旅行 本日は日帰りバス旅行、お楽しみ下さい。
 駅南バスターミナル 9 時出発
 参加費 = 後日徴収いたします。

3

① 12月、1月例会時に後期会費 15,000 円納入願います。

親睦バス旅行 駅南バスターミナル 9時出発

竹中大工道具館 竹中工務店の歴史、道具類（カンナ、のこぎり、ノミなど）大小沢山の道具類や建築物のはりや屋根の一部などが展示されています。また、奈良の唐招提寺や東大寺や京都の



竹 中 大 工 道 具 館



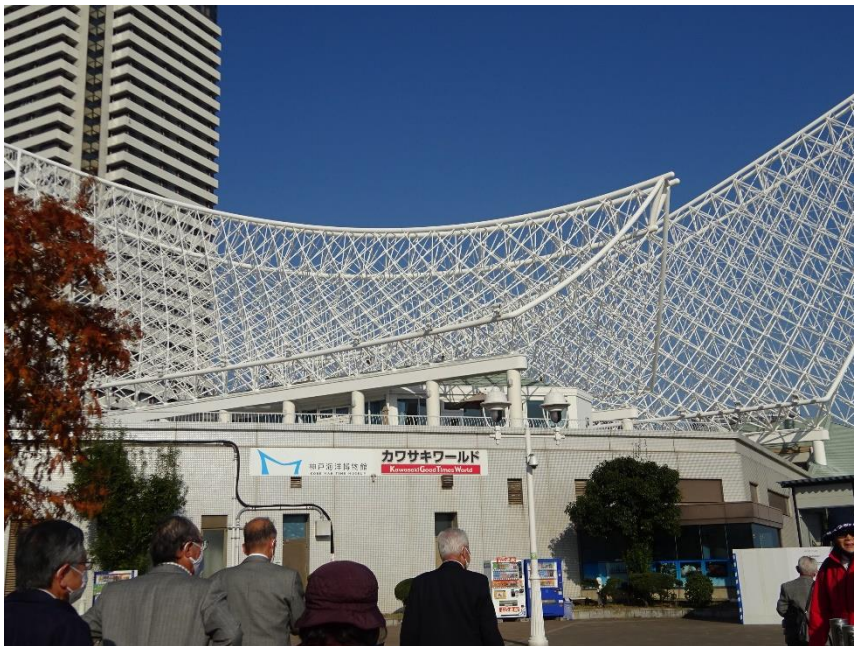
櫻政宗酒造・櫻宴

1 階の展示室を見学してから 2 階の櫻宴で食事を頂き、
日本酒と一緒に美味しく頂きました。



カワサキワールド

川崎重工業の歴史や、船舶（帆船から LCG タンカーまで）新幹線車両
明石海峡大橋、鉄橋、大型ヘリコプター、ジェットエンジンなど
最先端の多くの製品を展示していました。



『4万 km を歩いた男、伊能忠敬の「人生二度有り」』（シリーズその17）

松下秀明 記

クルーゼンシュテルンの『世界周航記』と、文化露寇事件（つづき）

レザノフはなぜ日本に来たのか。国際日本文化研究センター羽田孝之氏のブログによると、「クルーゼンシュテルンは、アラスカで獲得した毛皮を中国で売却し、そこで購入した中国商品をヨーロッパで売却することで、ロシアが莫大な利益を得ることができるとして、ロシア政府にその航路開拓のための世界周航を提案しました。それが認められ、クルーゼンシュテルンが準備を進めていたところに、アラスカで利益をあげていた露米会社の政府側監督者であったレザノフによる第二回遣日使節派遣が決まり、特命全権大使にレザノフが任命されたことで、両者の間で対立が生じましたが、最終的に航海を成功させています」とある。つまり商売を広げたいレザノフと世界一周航海をしたいクルーゼンシュテルンの利害が一致した。艦長はクルーゼンシュテルンとなった。カムチャッカに戻ったクルーゼンシュテルンは、その後サハリン東岸を再び北上し、海水の調査をしたが淡水と判断し、サハリンと大陸との間を分割するような海峡は存在し得ず、従ってサハリンは島ではなく半島であると誤って結論づけてしまった。のちの間宮海峡の誕生である。帰国したクルーゼンシュテルンは皇帝アレクサンドル一世によって、その栄誉を讃えられ、国費による『世界周航記』の出版が許された。この『世界周航記』は後のシーボルト事件に繋がっていく。

最近 NHKBS の「英雄たちの選択～文化露寇事件」を見た。興味深かったのは、フヴォストフが択捉島を襲った時、食料や家財と共に銃を奪った。ロシアの博物館でその時の銃を発見したが、それは戦国時代の型式だったという。以前御紹介したが、日本は江戸時代に入って平和になり銃の進化が止まってしまった。一方、ロシアはヨーロッパでの戦争が次々起こり、武器の改良が進み性能が向上していたため、日本は歯が立たなかったのである。

ペリー来航の 50 年前の話で、番組 MC の磯田道史教授はこちらの事件の方が歴史的に重要であると言い切っている。レザノフから 12 年前に以前紹介したラクスマンが来て、長崎での信牌を得たが

、当時老中首座の松平定信は戸田氏教に代わり、幕府の西洋の知識も格段に増えていた。特に参考になったのはケンペルの『鎖国論』(志筑忠雄訳)であった。そこには日本は鎖国をしているが、生活は豊かで安全だと記している。幕府はロシアの脅しによって開港したら、ヨーロッパの国々が一気に通商を迫ってくる。最悪はアフリカやアメリカのように植民地化されないという恐怖心が起こった。戸田氏は元首座の定信に意見を求め、定信は3回に渡り意見書を提出した。結論は、徹底して鎖国を続けることであった。磯田氏はこう締めくくった。**「文化露寇事件は大きな事件が起こる前触れであった。これが起こした反応は2つある。1つ目は、西洋の科学と強さへの強い憧れ。2つ目は、日本古来からの神と国への狂信的なこだわり。つまり攘夷である。これが太平洋戦争まで引き起こした」と**、文化露寇事件の対応をペリー来航以上に重大な事件と位置付けていた。文化露寇事件の時、ロシアに適切に開国していたら、ペリーの不平等条約は起きなかったという学者もいる。

伊能地図の北海道(蝦夷地)を完成させたのは、間宮林蔵だった

間宮林蔵と言えば蝦夷地や樺太の探検家で有名だ。しかし、その他の実態は良くわからない。なぜなら彼は幕府の隠密として活動し生計を立てていたからだ。林蔵は、安永九年(1780)、常陸国筑波郡上平柳村(現茨城県つくばみらい市上平柳)の小貝川の河畔に、農民の子として生まれた。その地域は水害対策のため利根川東遷事業を行っており、林蔵の生まれた上平柳下流でも、関東三大堰の一つに数えられている岡堰の普請を行っていた。林蔵は若くしてこの作業に加わり、幕臣の測量士となった村上島之丞に才能を見いだされた。その後幕府の下役人に取り立てられ、測量士として彼の弟子となった。ここが林蔵の原点である。

忠敬と林蔵は数回出会っている。1回目は寛政十二年(1800)に忠敬が蝦夷地に測量にやってきた時だった。忠敬の測量の様子を聞いていた林蔵は、村上島之丞に挨拶に来た忠敬に箱館(函館)で会った。忠敬のうわさは聞いており、自分も蝦夷地や樺太などの測量をいつつけられているので、測量の基本を教えてもらい弟子になる契約をしたとある。二人は馬が合ったようだ。

2回目は、忠敬が文化六年(1809)の第一次九州測量から帰った時で、同年の第二次九州測量に出かけるまでの約半年間、かなり頻繁に忠敬のもとに通って、測量や天体観測の技術を磨いた。そして、それに必要な機材を格安で譲り受けたのである。忠敬の林蔵に対する愛情がこもったエピソードである。

3回目は文化十四年(1817)、蝦夷地の測量地図を持って忠敬の屋敷を訪れた。林蔵は文化十一年(1814)から北海道の測量に出発し、文化十三年(1816)に終えて地図を完成したのち江戸に帰り忠敬に手渡した。しかし、忠敬はすでに病床にあり、林蔵はそのまま忠敬の家に逗留し、忠敬を見守ったが回復せず、翌1818年の臨終にも立ち会った。忠敬74歳であった。忠敬は林蔵の蝦夷地の地図を日本全図に取り入れるように指示をしたが、地図が完成したのは忠敬の死後3年経った文政四年(1821)である。忠敬が亡くなったことを伏せて、子息や弟子たちが完成にこぎつけた。林蔵はその後蝦夷地に戻り、3年かけて内陸部を調査し、『蝦夷全図』を完成した。



蝦夷地(北海道)は日本なのか？

ここで北海道(以後、蝦夷地と表現)や簡単に整理してみたい。蝦夷地や樺太、には考えられない。と同時に、当時幕府加した和人の功績も大きい。蝦夷地はア日本ではなかったという学者がいるが、それは嘘である。縄文時代は蝦夷地から九州まで日本全土に広がっていた。

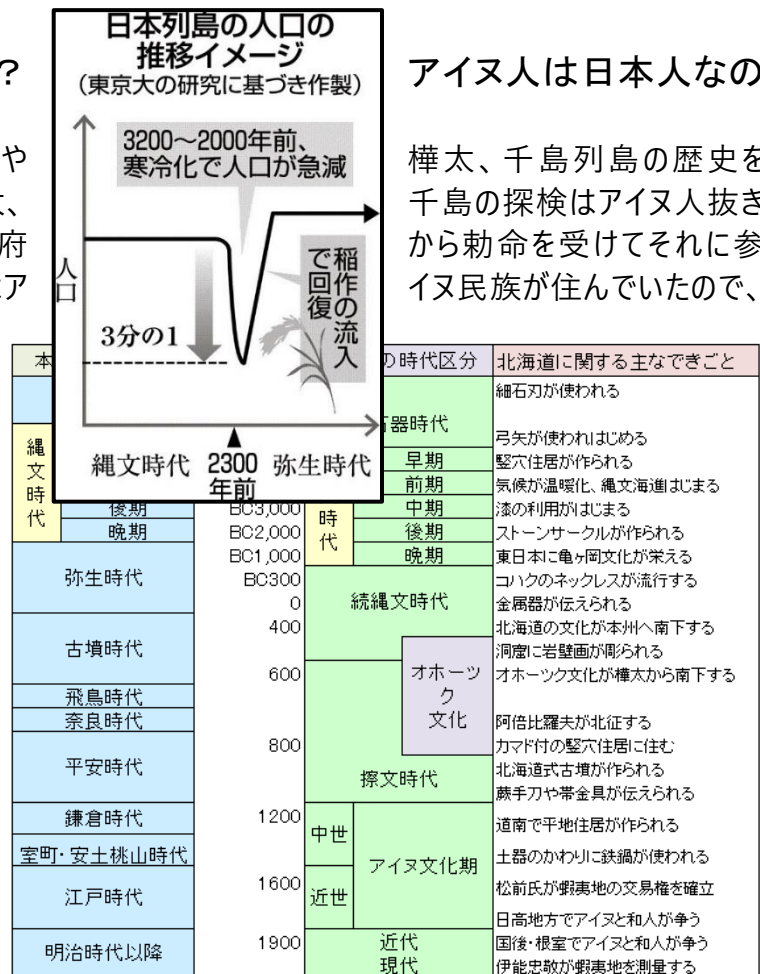
歴史研究家の中村恵子氏の著書『江戸幕府の北方防衛』に次のように書いてある。「かつて蝦夷地と呼ばれた北海道には、おびただしい旧石器時代、縄文時代の遺跡がある。世界最古の土器は、青森県大平山元1遺跡の1万6500年前の縄文土器である。北海道には、帯広大正3遺跡から出土した、世界最古の煮炊きに使ったことが証明されている1万4000年前の縄文土器がある」だそう

縄文時代の晩期に日本に寒冷期が訪れた。食料が少なくなり人口が3分の1まで減少してしまった。そこで朝鮮から稲作がもたらされて食料が安定すると人口が回復したと、東大チームがDNA鑑定をして明らかにした。

その後本州は渡来人が持ち込んだ稲作を中心とする弥生文化に変わった。そして、渡来人と和人の混血ができた。それが現代の日本人の始まりといわれている。一方、蝦夷地は稲が育たずそのまま続縄文時代となった(右図下参照)。その後、5世紀～12世紀頃にオホーツク人が南下して擦文時代となった。さらに和人も交わって混血となり、13世紀にアイヌ文化期が誕生したといわれている。つまり、蝦夷地(北海道)には今もアイヌ人の末裔が住んでいるが、私はみんな和人であると思っている。なぜなら和人とアイヌ人はアメリカインディアンや、アボジニよりも長く、本州の和人と多くの交流をしてきた歴史があるからである。

江戸時代、日本の経済を支えたのは、大坂、長崎、そして蝦夷地であった

蝦夷地は鎌倉時代からアイヌ文化となっていた。和人がアイヌ民族を支配したのは戦国時代からである。それまで蝦夷地はどうだったのか。前出の中村恵子氏によると、「奈良時代の720(養老4)年、日本が日本として成立したことを示す『日本書紀』に、すでに蝦夷地に関する記述がある。飛鳥時代の658(斉明4)年から660(斉明6)年、阿倍比羅夫は秋田、能城に郡領を定め、659(斉明5)年、後方羊蹄(しりべし)に郡領を置いた。同時期、豊富な鉄製品を副葬する土壌墓(どこうぼ)が現在の北海道恵庭、千歳、余市など道央にみられ、これらは律令国家と関係を持った続縄文時代の土着層が被葬者と考えられている」とされ、さらに、「平安時代末期に欧州、出羽の両地方を支配した陸奥国・平泉の奥州藤原氏は、院政期国家により「蝦夷」の統括者として位置づけられていたこともあり、蝦夷地とも深くかかわっていた。源頼朝の遠征軍に敗れた藤原泰衡(やすひら)は、1189(



アイヌ人は日本人なのか？

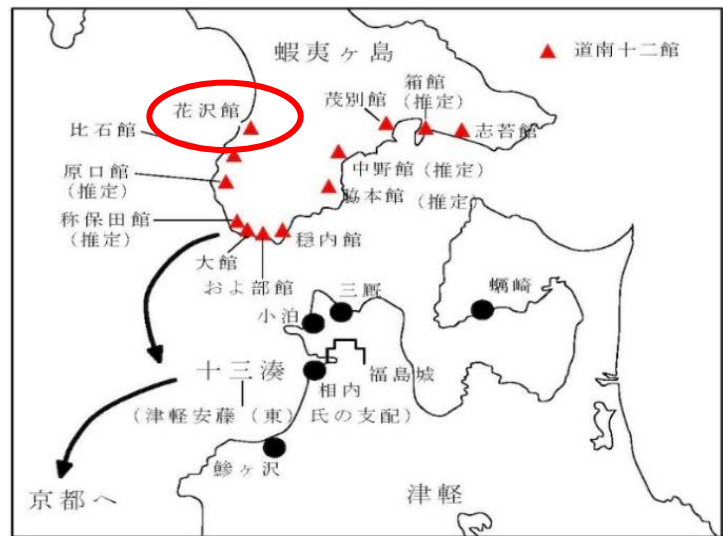
樺太、千島列島の歴史を千島の探検はアイヌ人抜きから勅命を受けてそれに参イヌ民族が住んでいたの、

文治5)年、蝦夷地に逃れようとして途中で部下に殺害されたが、多数の奥州藤原氏の旧臣が蝦夷地に逃亡した」と述べている。

和人とアイヌ人の大きな戦いは3つあると思う。「応永の北海動乱」「コシャマインの戦い」「クナシリ・メナシの戦い」である。さらに、アイヌとの貿易は、最初「城下交易制」から始まり「商場知行制」、さらに「場所請負制」に変異していった。この6つが絡み合っアイヌと松前藩の長期にわたる貿易と交戦が続いたのである。

建久三年(1192)、源頼朝が征夷大將軍となり鎌倉幕府を開いたのであるが、幕府の訴訟手続き書『沙汰未練書』に「武士の沙汰」として三つのことが記されており、その一つである「東夷成敗のこと」によって、安藤太を「蝦夷管領」に任命したと記されていた。ここから安藤水軍が蝦夷地と本州の交易の担い手となった。この安藤氏は後の蠣崎氏、さらに松前氏となり松前藩となった家系である。室町時代、三代將軍足利義満は明德四年(1392)に南北朝が合一し、その直後、蝦夷の蜂起「応永の北海動乱」が起き、それを平定したのが安藤康季(やすすえ)と鹿季(かのすえ)であった。二人はその功績により、室町幕府からも引き続き、「蝦夷地支配の責任者の地位」を認められた。

長祿元年(1457)、和人の若者とアイヌ人の争いが、アイヌの蜂起となった。蝦夷地で商売をしていた十二の館の十館が襲撃され、わずかに花沢館(右図赤丸)が残っていた。蠣崎季繁(すえしげ)の花



沢館に寄寓していた武將武田信広が総大将になり、東部アイヌ大将コシャマインとの戦いで、武田信広が勝利した。この武田信広は若狭の出身で、訳があって蝦夷地に逃れていた。花沢館主の季繁は、安藤師季の娘を養女にしてから武田信広に嫁がせた。この婚姻によって、武田信広は季繁の娘婿となり、蠣崎信広となって家督を継ぎ、花沢館主「上ノ国守護」となるのである。この結果、安藤氏に代わって渡島半島(蝦夷ヶ島)を治めるのは蠣崎氏となった。

文祿二年(1593)、蠣崎慶広は肥前名護屋に出向き秀吉に拝謁し、「国政之御朱印」を得た。秀吉の直臣となった慶広は、晴れて檜山安藤氏から独立し、蝦夷地当事者として承認された。さらに、慶長九年(1604)1月27日、慶広は徳川家康から蝦夷地統治を認める「黒印状」を受ける。前年蠣崎氏は松前氏に改名し松前藩が成立する。松前藩では、蠣崎信広を松前氏の初代としている。ここに蝦夷地での交易は松前藩の独占が承認され、江戸時代末期まで続く。

この地は江戸初期から松前藩の重要な「場所」で、この時代は、岐阜下呂出身の飛騨屋久兵衛が「場所」を請け負っていた。アイヌの人々を使って酒のメ粕を製造していたが、松前藩に対する多額の貸金を回収するために、アイヌの人々を酷使していたといわれている。これが「場所請負制」である。完全に商人に商売をやらせ、売上金から利益を受け取っていたのである。しかし、この飛騨屋の横暴がやがて「クナシリ・メナシの戦い」に繋がり、幕府は北方のごたごたを無視できなくなった。なぜなら、アイヌがロシアと密貿易をしているという疑いがもたれたからである。このアイヌの反乱を松前藩が退治しようとしたが、アイヌ自ら和人を殺害した首謀者37人を処刑して事件は終わった。寛政三年(1791)、幕府は最上徳内、和田兵太夫に国後、択捉、ウルップ島、樺太の調査をさせ、また、国後、キタツプ、厚岸、石狩、宗谷で、アイヌに対する「御救(おすくい)交易」を実施した。ロシアの動きと松前藩の不祥事を調査するためである。

松前藩とアイヌとの間に小競り合いはあったが、お互いの利益のためには交易を続けるしかなかった。

特に「場所請負制」になってからは、近江商人以外の瀬戸内海や大阪の商人も「北前船交易」を行うようになった。前出の中村慶子氏によると「**このころ、綿花の栽培が軌道にのり、江戸時代には、庶民の衣服が木綿のものに変わる衣服革命が起きていた。油を搾った後の鰯粕が、瀬戸内海地方の綿花栽培の肥料として、飛ぶように売れた。それまでの鰯の肥料より綿花を良く育てた。綿花だけでなく、ミカンや藍、サトウキビ等の栽培にも使用され、農業の生産力が向上した。敗れづらい帆布ができ、北前船の長距離航海が可能になったのも、鰯粕を肥料にした兵庫や岡山の綿花栽培増産の賜物だ。瀬戸内に塩田が広がったのは、北前船がいくらでも塩を買ってくれたからであり、同様に砂糖、木綿、島根では鉄、福井では和紙、刃物と、北前船はいくらでも買ってくれ、蝦夷地に向かった**」と書かれている。木綿布の帆のおかげで海運業が大いに栄え、全国の特産物が交易として活用された。

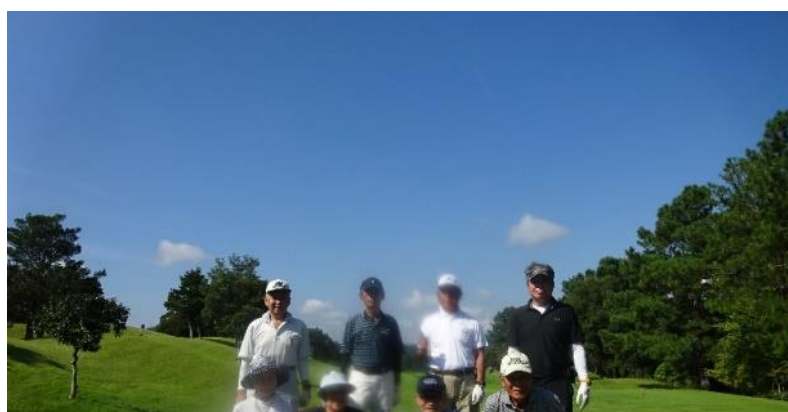
塩は江戸でも作られたが、人口増加により塩の生産が追い付かなくなり、瀬戸内海が注目された。その結果、「赤穂の塩」は質と量で貴重品として扱われた。赤穂市立有年考古館の情報誌によると、「**弥生時代から続いていた赤穂ですが、江戸時代初め(約 400 年前)までは、全国的に有名な産地というわけではありませんでした。有名であったのは現在の加古川市や姫路市、高砂市付近の塩田でした。・・・江戸時代赤穂藩の歴代藩主がこの「入浜式」を開発しましたが、中でも浅野家初代浅野藩主の浅野長直は大塩や的形の塩田技術者を呼び、大規模な塩田開発事業を行います**」と、その歴史を語っている。この入浜式の技術は瀬戸内海沿岸に伝えられ、「十州塩田」というブランドを作った。十州とは播磨、備前、備中、備後、安芸、周防、長門、阿波、讃岐、伊予の十カ所ので、最盛期には全国の 9 割を占めた。

以上

第 45 回 親睦ゴルフコンペ

9 月 1 2 日 福崎東洋ゴルフクラブ 成 績 表

ランク	氏 名	O	I	G	H	Net
(優勝)	市河保俊	58	53	111	43.2	67.8
(2 位)	坪田一夫	49	54	103	30.0	73.0
3 位	前田外美子	57	55	112	34.8	77.2
4 位	中塚昭三	49	52	101	22.8	78.2
5 位	中野 剛	55	52	107	27.6	79.4
6 位	長谷川正子	68	62	130	48.0	82.0
7 位	大橋一喜	66	76	142	50.4	91.6
N R	濱口浩平	68	イン・リタイア			





みんなが主役、

みんなが脇役

『クリスマスローズ』 12月24日

楽しくなければ

“私を忘れないで”

プロバスではない

川 柳

石の上にも 3年

となるコロナ

「久しぶり」 誰かなあ

でも笑顔する



《 編 集 後 記 》

本年もいよいよ師走の時期になりました。素晴らしい新年を期待しましょう。新年もプロバス活動にご協力お願い致します。
今後とも宜しくお願い申し上げます。

第 114 号 令和 4 年 12 月 14 日 姫路南プロバスクラブ（二水会）
姫路市南駅前町 100 ホテル日航姫路 601 号室
姫路南ロータリークラブ事務局内
電 話 079－224－8224（F A X 288-3941）
会報発行：総務委員会・広報担当・濱 口 浩 平